

赤穂義士 本懐を遂げる!!



歌川国清画

「忠臣蔵十二段 大尾」

(草津市蔵・中神コレクション)

ちゅうしんぐらじゅうにだん

たいび

時は元禄 15 (1702) 年 12 月 14 日。折しも降りしきる雪を、サクッサクッ…踏みしめて行く 47 の影。目指すは主君浅野内匠頭の仇、吉良上野介の屋敷…。静寂を破る合図の鉢(かね)！「おのおの方、討ち入りでござる！」「浅野内匠頭家来、主の仇討！」。

「忠臣蔵」の物語は、江戸時代元禄年間に実際に起こった「赤穂事件」を題材にして上演された浄瑠璃作品「仮名手本忠臣蔵(かなてほんちゅうしんぐら)」を基にしています。

「赤穂事件」とは元禄 14 (1701) 年 3 月 14 日、江戸城松の廊下で起こった赤穂藩主浅野内匠頭が高家(こうけ)吉良上野介に切りかかるという刃傷事件に端を発し、目的を果たせず即刻切腹、御家断絶となつた浅野内匠頭の仇を打つため、翌年、家老大石内蔵助を筆頭に浪人となつた家来が吉良邸に討ち入つた事件です。幕府内部でも、喧嘩両成敗の原則に外れお咎めのなかつた吉良上野介に対し、正義を貫いた家来に賛同する声もあり、徒党を組み不届きとしながらも武士と

して面白の立つ切腹の判断が下りました。このことは事件の起こった当初から庶民の話題に上り、討ち入った浪士側を称賛し、たちまち人形浄瑠璃など数々の作品に描かれました。しかし、幕府から「戯場にても近き異事を擬する事なすべからず」との禁令が出されたのです。

その後、断絶していた吉良家は、宝永 7 (1710) 年、分家の濱田義俊が吉良姓を名乗る事を許されます。同年に浅野家も浅野内匠頭の弟・浅野大学長広が旗本職に復帰しており、断絶した両家は奇しくも同じ年に再興されました。

同年齢であったこの二人が相次いで亡くなつたその数年後、事件から 47 年がたち、いよいよ寛延元 (1748) 年、義太夫浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」が大阪で初演され一躍人気を博します。舞台を室町時代としたこの作品は、赤穂事件を取り上げていると知れる絶妙な設定と創作のミックスが功を奏し、歌舞伎の演目としても取り入れられる人気作品となつたのです。

(令和 5 年 12 月・草津宿本陣 吉崎 早苗)